

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号： 34522
 研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2009～2011
 課題番号： 21530490
 研究課題名（和文） 四半期連結決算短信を活用した経営者の財務行動の分析

研究課題名（英文） Managerial Behavior in Japanese Corporations
 - Evidence from Quarterly Business Reports -

研究代表者

来栖 正利（KURUSU MASATOSHI）

流通科学大学・商学部・准教授

研究者番号：80268573

研究成果の概要（和文）：想定していた研究成果と今後の実施可能かつ貢献度が高いと判断する研究課題をいくつか得ることができた。主たる成果は次の通りである。(1)米国企業が融資手段として売上債権を活用したこと、および当該実務から派生する関連実務を記述した。(2)信用取引に関する先行研究の含意を念頭におきながら、短期流動性を管理するツールの一つであるキャッシュ・コンバージョン・サイクルの属性を規範的に検討した。(3)四半期連結決算短信を活用し、四半期連結キャッシュ・コンバージョン・サイクルの決定要因を抽出した。

研究成果の概要（英文）：The research project launched from 2009 to 2011 was completed more successfully than I had expected. Some implications including future topics to be considered could be outlined as follows. (1)Accounting receivables financing and its functions were more emphasized than accounting researchers in Japan had done. (2) Concentrating on accounting procedures to calculate the accounting figures, calling cash conversion cycle, some properties of the cycle were normatively examined. The implications of the research were shared at the 69th annual meeting of the Japan Accounting Association. (3) Determinants of the cycle with quarterly business reports, being unaudited and unauthorized, were empirically explored. The research results were discussed at the 70th annual meeting of the Association.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：財務会計、企業間信用、ファクタリング、信用枠、売上債権の投融資機能、キャッシュ・コンバージョン・サイクル、ブランド

1. 研究開始当初の背景

売上高がキャッシュ・インフローを生む源泉であるものの、その程度が売上債権、仕入

債務と棚卸資産の管理の巧拙に依存する。これは資金管理の巧拙に起因する企業存続に

関わる。リスク・ヘッジの一手段としてこれらの管理に関する経営者のインセンティブを検討することが経営者の財務行動の説明と簿記教育の改善に資すると判断し、その実施を計画した。

赤字であっても倒産しない一方で黒字倒産があり得るという事実に基づけば、企業存続が経営者のキャッシュ・フロー管理能力に左右される。この観点に基づいて、企業存続を根本で支える本業に関する経営者の業績管理能力を評価したいというのが本研究の基本的な問題意識である。そのさい、売上債権、仕入債務そして棚卸資産の管理を、キャッシュ・フローを管理するリスク・ヘッジの一手段と考える本研究の視点が先行研究とは異なる視点であると思われる。

2. 研究の目的

具体的に述べれば、四半期連結決算短信を活用して、次の仮説を支持する推定結果を得ることである：「棚卸資産、売上債権、そして仕入債務の適切な管理を行うことによって、経営者は業績の質の維持改善することができる」。ここで「業績の質」とは、発生主義(会計)に基づいて算定された各利益に占めるキャッシュ・フローの程度と定義づける。

なお、研究の進捗状況を勘案しながら、上述の研究課題を適切に解決できる業績指標を模索した。その結果、四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルを業績指標(従属変数)とし、その決定要因の抽出の試みを通じて、上述の仮説検証を行った。

3. 研究の方法

本研究課題はパネル推定法を使用して解決される。パネル推定法を使用する理由は次の通りである。時の経過に基づいて生じる状況の変化を追跡し、ある状態になる以前とそれ以後の状態とを検討する適切な分析枠組みを、パネル推定法の使用によって、設定できる。売上債権、仕入債務、そして棚卸資産の管理を経営者が複数年を一区切りとして実施しているだろう。この点を踏まえて、当初の計画が時の経過に基づいて修正される場合、時系列データと横断面データを活用して本質的な決定要因の抽出を試みることは、説明力の高い変数を抽出するために有用である。

本研究課題を解決するために使用するサンプル数は2,226社/四半期である。これらのサンプルを次の基準に基づいて収集した。(1)日経平均株価指数に選定されている銘柄の中から金融・損保に分類された日本企業を除く

144社であること(2009年3月31日時点)。(2)2000年3月31日(第4四半期)から2009年(暦年)3月31日(第4四半期)までの四半期連結決算短信を入手できること。(3)日本において一般に承認された会計原則に基づいた連結財務諸表を作成していること。以上から、入手し得る四半期連結決算短信に基づいて、(4)分析対象期間を2004年4月から2010年3月31日を決算とした。

なお、サンプル企業が合併または持ち株会社になった場合、日経平均株価指数に採用されている銘柄であることを条件に、存続企業をサンプルとして収集した。

4. 研究成果

(1) 個人の意味決定の背景にはさまざまな心理的過程が横たわっている。経営者が行う財務会計行動を意思決定と理解すれば、心理学や組織論において蓄積された研究成果を活用することができる。そこで、意思決定に関する先行研究をレビューし、意思決定行動の影響要因を検討した。得られた主たる研究成果は選択対象となる財の有形性と無形性、時間の経過に伴う意思決定者の感情の揺れ、リスク許容度を加味した命題の提示としてまとめた。

(2) 企業間信用の仕組みと信用評価手続きを記述した。この研究課題を、1940年代に米国で普及し始めた信用取引に関する報告書の紹介を通じて、解決した。当該研究課題を設定した目的は企業間信用を活用した投融资機能を会計学者がほとんど重視してこなかったことに起因する。主たる研究成果の概要は次の通りである。ファクタリングの基本形態の記述を行った上で、売上債権および仕入債務の管理状況に着目した研究が企業の存続可能性に影響を与える経営者の信金創出および管理能力の巧拙を説明することに資するだろうと結論づけた。

(3) 売上債権を活用した信用枠の決定要因の検討を通じて、信用取引の評価に関する経営者の意思決定が財務構造に与える影響について論じた。信用リスクを評価する際、債権者の財務構造に与える影響を考慮する必要性がある点を指摘した。具体的には、生産能力に関連する有形固定資産、販売能力に関連する棚卸資産、そして信用リスクに対する経営者の選好、少なくとも三つの項目が得意先の信用リスク評価に影響を与えると結論づけた。

(4) 信用取引の質に影響を与える要因に

着目し取引当事者の行為パターンを記述した。得られた結論は次の通りである。疑似貨幣の使用を特徴とする信用取引は取引当事者の虚ろ気な信用が支えている。しかも、その変化は取引当事者の行為に影響を与え、それは取引当事者双方にプラスの影響を与えるわけではない。換言すれば、この影響の属性は取引当事者の財務構造の程度によって異なる。

(5) キャッシュ・コンバージョン・サイクルの意義を探究した。現預金即時決済可能性を高く維持することは企業の存続可能性の改善に貢献する。経営者による短期運転資本管理の巧拙に着目することによって、即時決済可能性の水準を評価できる。この目的はキャッシュ・コンバージョン・サイクルの算定によって達成できる。なぜならば、営業活動が生み出す正味現預金残高が投資機会を実施するために必要不可欠な資金源泉になるからである。

(6) 信用取引がもつ属性の一つである投融資機能に着目し、当該取引が内包する会計問題を提示した。この課題を解決するために、信用取引の割引率(金利)と信用供与期間との関連性を検討した Wilner(1995)の含意を活用した。信用供与期間を投融資期間と見なせば、売上代金の早期回収を図るために提示する割引率は時の経過に基づいて変化する貨幣価値の変化の水準と同じ機能を果たす。これは、売上債権残高に基づく貸し倒れの見積もりという会計実践が、時の経過に基づく貨幣価値の変動を加味していることを示唆する。

貸し倒れ見積額を控除した売上債権の期末残高の算定目的が次期以降の売上代金の回収可能額の現在価値のそれにあると解釈する場合、次の三つの疑問を抱いた。第一に、会計学を根底で支える貨幣価値一定の公準が既に機能していないのか。第二に、会計学の価値観が変化しているのか。そして第三に、会計学が時の経過に基づいて変化する貨幣価値を考慮していると考えた場合、財務数値が経営者の財務会計行動をどの程度適切に反映できているのか。

以上のような問題意識に基づいて行った研究成果の概要は次の通りである。取引当事者の信用水準が一定であると仮定すれば、取引当事者の自由裁量が及ばぬところで現預金残高が内包する貨幣価値の変動が常に生じている。取引当事者はこの変動を予め見込んだ上で日々の経営活動を行っているだろ

う。そうであるにも関わらず、会計学は貨幣価値の変動を一定と仮定し、期間損益計算を適正に行い、かつそれを財務諸表に適切に表示することを重視してきた。

残念ながら、この会計観は実践的な学問としての会計学の有用性を制限していると思われる。この制限を緩和する手段の一つとして、現在割引価値の理解を促す会計教育、そして最善な会計教育を提供するために当該概念を考慮した会計学研究をいっそう拡充することが有用かつ必要であると思われる。

(7) 四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルの水準を決定する要因の抽出を、四半期連結決算短信を活用して、試み、次の結論を得た。発生主義項目に基づいて自己金融作用をもたらす会計手続きが四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルを適切に説明しているとはいえない。換言すれば、四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルの決定要因が発生主義項目に関する経営者の自由裁量に基づいているとは限らないことを意味する。むしろ四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルの決定要因は強力なブランドである。ここで、ブランドとは会計学で扱われる暖簾をも含む概念である。企業規模と盤石な信用に裏付けられたブランド力は有利な仕入活動と果敢な販路拡充を経営者に選好させている。

企業のブランドは内部留保の裏付けをもつ信用力と安定した取引関係の構築に支えられている。これは強力な仕入価格交渉力の行使と有利な商製品の引渡条件の提示を可能とする。安定したコスト管理は強力な信用力の維持改善に貢献するとともに果敢な販路拡充の選好という経営者のインセンティブを刺激する。とはいえ、盤石な財務構造が売上債権の滞留を招き、経営者は自らリスクの追加負担を招いている可能性がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 来栖正利、「四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルの決定要因」、『会計』、第181巻、第5号、2012年、pp.90-103。(査読無し)
- ② 来栖正利、「信用取引と時の経過に基づく貨幣価値の変動」、『経理研究』、第54号、2011年、pp.293-301。(査読無し)
- ③ 来栖正利、「企業間信用」、『流通科学大学論集-流通・経営編-』、第23巻、第1号、

2010年、pp.139-148。(査読無し)

- ④来栖正利、「信用取引の質」、『流通科学大学論集-人間・社会・自然編-』、査読無し、第23巻、第1号、2010年、pp.161-168。
- ⑤頭師暢秀、来栖正利、「意思決定行動の構造」、『流通科学大学論集-人間・社会・自然編-』、第22巻、第2号、2010年、pp.99-109。(査読無し)
- ⑥来栖正利、「売上債権に基づく信用枠の決定要因」、『流通科学大学論集-経済・経営情報編-』、第19巻、第1号、2010年、pp.141-149。(査読無し)
- ⑦来栖正利、「キャッシュ・コンバージョン・サイクル」、『會計』、第178巻、第6号、2010年、pp.57-69。(査読無し)

〔学会発表〕(計2件)

- ①来栖正利、「四半期キャッシュ・コンバージョン・サイクルの決定要因」、日本会計研究学会第70回全国大会、2011年9月19日、於 久留米大学。
- ②来栖正利、「キャッシュ・コンバージョン・サイクル」、日本会計研究学会第69回全国大会、2010年9月9日、於 東洋大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

来栖 正利 (KURUSU MASATOSHI)
流通科学大学・商学部・准教授
研究者番号：80268573